

主要試験研究成果  
PR版 2022



滋賀県農業技術振興センター

# 令和4年度主要試験研究成果一覧

分野	技術名	分類	ページ
作物	大麦「ファイバースノウ」の麦茶用途栽培に対する新たな多収施肥技術	指導	1
野菜	タマネギの細菌性腐敗症状を引き起こす病原細菌とその発病適温	研究	2
野菜	ネギアザミウマ「産雌型」と「産雄型」の県内分布と殺虫剤感受性	指導	3
果樹	ブドウ台木「テレキ5BB」を用いた醸造用ブドウ専用品種の簡易な苗木育成技術	指導	4
果樹	年2回収穫を目指すICT環境制御型園芸ハウスを利用したイチジクのポット栽培技術	研究	5
花き	大輪系アスターを年内収穫するための加温温度	指導	6
茶	温度履歴を利用したチャ冬芽耐凍温度の推定法	指導	7
茶	葉濡れセンサーを利用したチャ炭疽病感染好適日の推定とその防除方法	指導	8
茶	土壌センサーによるEC値からの土壌中無機態窒素量の推定法	研究	9
茶	有機栽培適性品種「ふうしゅん」を用いた有機栽培茶生産体系	普及	10
茶	長期被覆により摘採適期の拡大が図れるチャ品種「かなえまる」	普及	11
土壌	水稻の環境こだわり栽培に対応したプラスチックを利用しない緩効性肥料の施用効果	研究	12
土壌	浅水代かきによるプラスチック被覆肥料由来の被膜殻の浮遊抑制	指導	13

# 麦茶向け大麦の新たな多収技術ができました

## 大麦「ファイバースノウ」の麦茶用途栽培に対応する新たな多収施肥技術

オススメする方

普及指導員

JA営農指導員

### 成果の内容・特徴

- ① 「ファイバースノウ」の**麦茶用途栽培**において、**基肥**、**年内追肥**および**茎立期追肥**を1月中旬の**分けつ期追肥**に**集約**し、**実肥**を**止葉展開期**に施用する施肥技術を開発しました(図1)。
- ② この技術により、麦茶用途の基準値である**タンパク質含有率9.0%以上**を達成しつつ、**基肥重点施肥**と比べて**13~18%の増収**が見込めます(図2)。

### 図、写真、具体的データなど

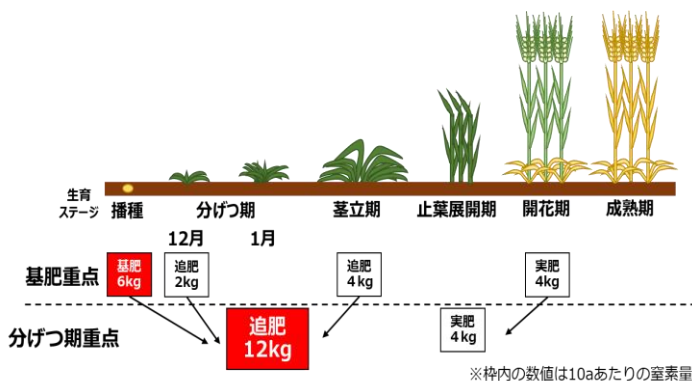


図1 施肥体系のイメージ

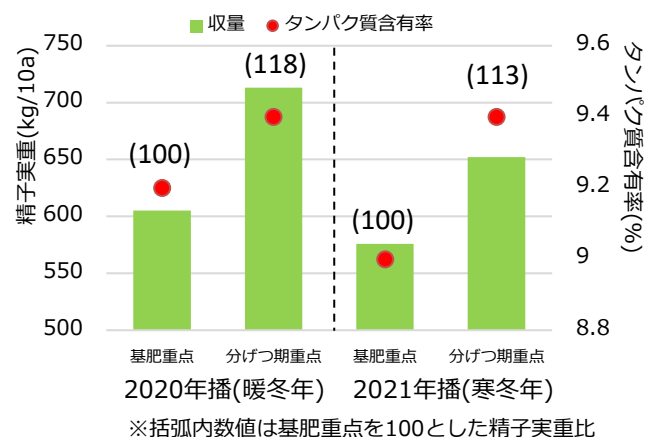


図2 分けつ期の重点施肥による増収

<お問い合わせ先> 滋賀県農業技術振興センター

栽培研究部 作物・原種係 電話: 0748-46-3083 E-MAIL: gc57300@pref.shiga.lg.jp

<詳細な技術情報>

農業技術振興センターホームページ <http://www.pref.shiga.lg.jp/nouagicenter/shiryou/seika/331437.html>

# タマネギ細菌性腐敗症状の原因菌を特定

タマネギの細菌性腐敗症状を引き起こす病原細菌と  
その発病適温

施策への活用

競争力の強化

成果の内容・特徴

- ① 本県のタマネギに細菌性腐敗症状を引き起こす主な原因が、*Burkholderia cepacia*による腐敗病であることを明らかにしました(図1)。
- ② *B. cenocepacia*による腐敗病や*B. gladioli*によるりん片腐敗病も収穫後の細菌性腐敗症状の原因となります。
- ③ *B. cepacia*はタマネギりん片に対して、15°C前後から発病可能で、30~35°C程度の高温条件で発病が助長されます(図2)。

図、写真、具体的データなど

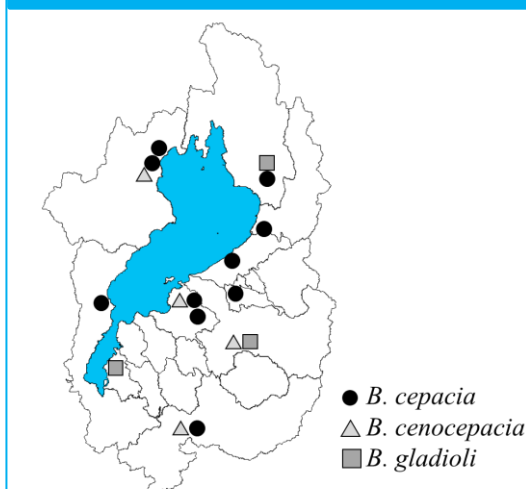


図1 タマネギの各病原細菌の分離地点

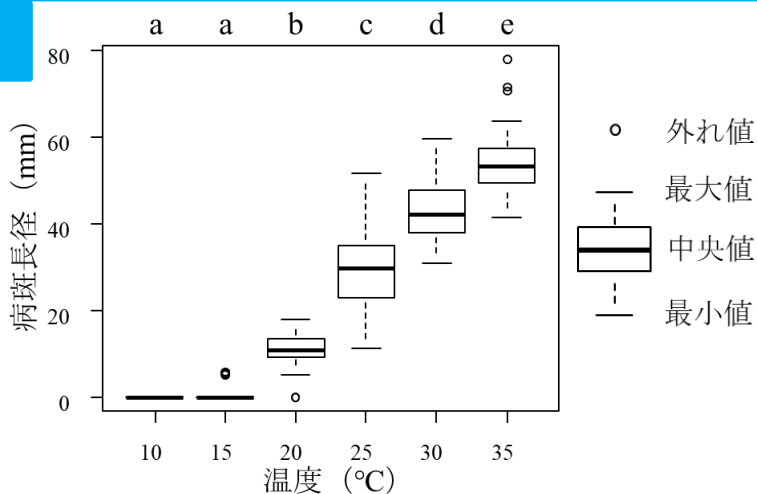


図2 *Burkholderia cepacia*の接種後温度が病斑長径に及ぼす影響  
\*異なる英小文字は5%水準で有意差があることを示す(Tukey検定)。

<お問い合わせ先> 滋賀県農業技術振興センター

環境研究部 病害虫管理係 電話: 0748-46-4926 E-MAIL: gc70@pref.shiga.lg.jp

<詳細な技術情報>

農業技術振興センターホームページ <https://www.pref.shiga.lg.jp/nougincenter/shiryuu/seika/331437.html>

# ネギアザミウマに有効な殺虫剤

## ネギアザミウマ「産雌型」と「産雄型」の県内分布と殺虫剤感受性

オススメする方

普及指導員、JA営農指導員 等

成果の内容・特徴

- ① ネギやタマネギを栽培する露地ほ場のネギアザミウマは、全国で広く発生している「産雌型」が多数を占めます(図1)。
- ② 一部のほ場では、殺虫剤感受性が低下しやすいとされる「産雄型」が混在しています(図1)。
- ③ 「産雌型」と「産雄型」のいずれも、アセフェートやスピネトラム、フルキサメタミド、フロメトキンに高い感受性を示します(図2)。

図、写真、具体的データなど

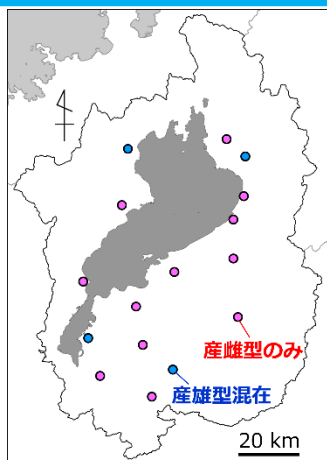


図1 「産雌型」と「産雄型」の分布  
2020～2022年の調査の結果。

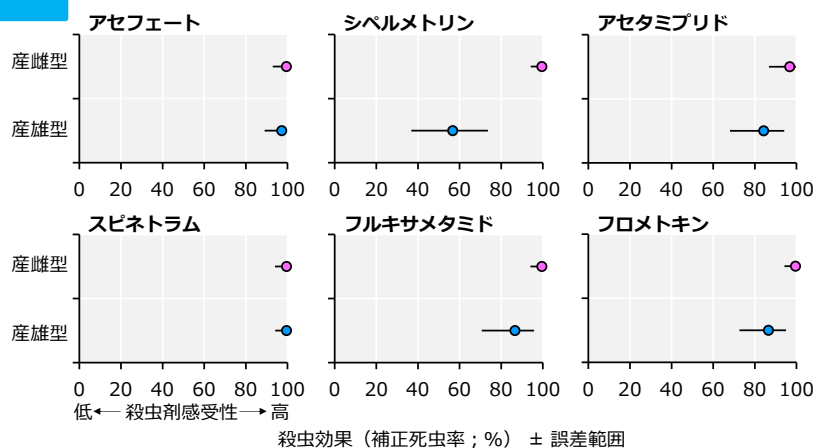


図2 「産雌型」と「産雄型」の殺虫剤に対する感受性  
「産雄型」では、一部の殺虫剤に対する感受性が「産雌型」よりも低い可能性があります。

<お問い合わせ先> 滋賀県農業技術振興センター

環境研究部 病害虫管理係 電話: 0748-46-4926 E-MAIL: gc70@pref.shiga.lg.jp

<詳細な技術情報>

農業技術振興センターホームページ <https://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/shiryou/seika/331437.html>

## 醸造用ブドウ専用品種の苗木育成技術

ブドウ台木‘テレキ5BB’を用いた醸造用ブドウ専用品種の簡易な苗木育成技術

オススメする方 ブドウ生産農家

## 成果の内容・特徴

- ① 3月下旬にブドウ台木品種‘テレキ5BB’と醸造用ブドウ専用品種の休眠枝同士を割り接ぎによって接ぎ挿しすることで、成苗率が比較的高く、苗木として十分な新梢量を確保できます(表、写真)。
- ② 台木の切り込みに、下端をくさび形に削った穂木を差し込み(割り接ぎ)、接ぎ木部はパラフィンフィルムを用いて固定します。割り接ぎした後は、台木の下側の節をせん定鋏等で削り、5cm角ロックウールキューブに埋まるように挿し木します(写真)。

## 図、写真、具体的データなど

表 成苗率および穂木の新梢生育

区*	2021年			2022年		
	成苗率 <sup>y</sup> (%)	穂木新梢長 <sup>x</sup> (cm)	穂木新梢径 <sup>z</sup> (mm)	成苗率 (%)	穂木新梢長 (cm)	穂木新梢径 (mm)
ピジュノワール・緑枝接ぎ区	10	55.1 b <sup>v</sup>	3.8 cd	—	—	—
ピジュノワール・休眠枝接ぎ区	55	208.5 a	6.6 b	—	—	—
シャルドネ・緑枝接ぎ区	35	119.1 b	5.3 bcd	—	—	—
シャルドネ・休眠枝接ぎ区	75	240.2 a	7.8 a	—	—	—
マスカット・ベリーA・緑枝接ぎ区	80	97.5 b	5.1 d	75	109.1 b	4.8 c
マスカット・ベリーA・休眠枝接ぎ区	55	237.6 a	6.6 bc	90	253.2 a	6.0 bc
ヤマソービニオン・緑枝接ぎ区	—	—	—	35	76.0 b	4.4 c
ヤマソービニオン・休眠枝接ぎ区	—	—	—	90	235.8 a	7.8 a
モンドブリエ・緑枝接ぎ区	—	—	—	60	141.5 b	4.9 c
モンドブリエ・休眠枝接ぎ区	—	—	—	75	307.7 a	7.0 ab

z:緑枝接ぎ区は、台木を3月上旬に挿し木してその約100日後に割り接ぎし、休眠枝接ぎ区は、3月下旬に割り接ぎによる接ぎ挿しを実施。

y:成苗率は、供試数20本のうち接ぎ木部にカルスが形成されて穂木から3枚以上展葉し、落葉後に接ぎ木位置から3~4節上の節間部の新梢径が3mm以上の苗の割合。

x:穂木伸長量は、各区接ぎ木成功後の9月4日に測定。

w:穂木新梢径は、接ぎ木位置から3~4節上の節間を9月4日に測定。

v:Tukeyの手法による多重比較検定において、異符号間に5%水準で有意差あり。



写真 休眠枝を用いた接ぎ挿し法

&lt;お問い合わせ先&gt; 滋賀県農業技術振興センター

花・果樹研究部 果樹係 電話 077-558-0221 E-MAIL: gc58@pref.shiga.lg.jp

&lt;詳細な技術情報&gt;

農業技術振興センターホームページ <https://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/shiryoku/seika/331437.html>



# せん定と摘心でイチジクの年2回収穫

年2回収穫を目指すICT環境制御型園芸ハウスを利用したイチジクのポット栽培技術

施策への活用

競争力の強化

成果の内容・特徴

- ① **環境制御(温度、CO<sub>2</sub>濃度)**下で、1月上旬に基部2節を残して**せん定**することで6月中旬から収穫、6月中旬に新梢先端を**摘心**することで、収量こそ低いものの10月下旬から収穫ができ、**年2回収穫**が可能です(図)。
- ② 1月せん定した株に3月から収穫終了まで6時と18時に各2時間、**LED**で**補光**を行うことで、着色と糖度が向上します(表)。

図、写真、具体的データなど

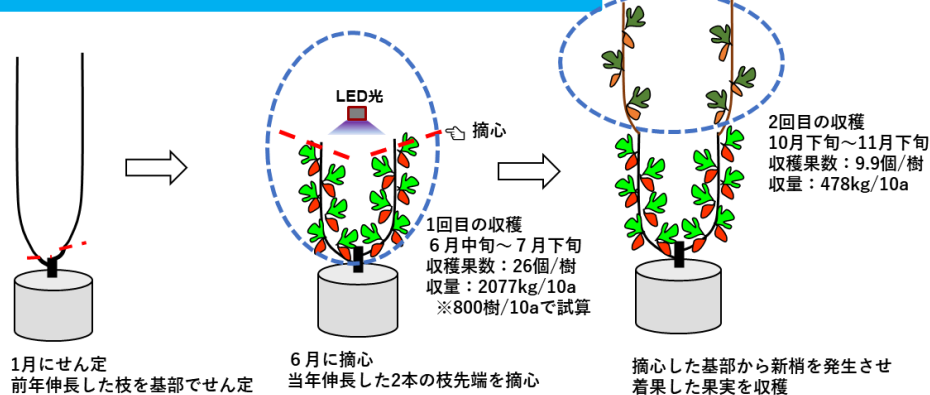


図 年2回収穫栽培体系 (定植2年目)

表 LED補光が果実品質に与える影響

区	果皮色 <sup>z</sup>	糖度 (Brix%)
LEDあり	2.3	12.5
LEDなし	1.1	11.5
有意性 <sup>y</sup>	**	**

z：着色割合を5段階(0:果皮の着色の程度が20%未満、1:40%未満、2:60%未満、3:80%未満、4:80%以上)で評価

y：t検定により\*\*は1%水準で有意差あり

\*：両区とも果皮色は全果実、糖度は15果を調査

\*：試験に用いたLEDはフィリップ社製GreenPower

<お問い合わせ先> 滋賀県農業技術振興センター

花・果樹研究部 果樹係 電話：077-558-0221 E-MAIL：gc58@pref.shiga.lg.jp

<詳細な技術情報>

農業技術振興センターホームページ <https://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/shiryoku/seika/331437.html>

Mother  
Lake

滋賀県

# 加温温度10℃で大輪系アスターを年内に収穫

## 大輪系アスターを年内収穫するための加温温度

オススメする方 花き生産農家

### 成果の内容・特徴

- ① **大輪系アスター** ‘ボブチェリッシュ’ ‘ボブスイートピンク’ ‘シャギーローズ’ は、9月上旬に定植し、ハウス内の**加温温度を10℃**に保つと、**年内に収穫**できます(表)。
- ② 加温温度10℃と15℃における切り花長は、‘ボブチェリッシュ’、‘ボブスイートピンク’ で大差はなく、‘シャギーローズ’ は加温温度10℃で短くなるものの70cm以上の切り花が9割程度得られます(図、表)。
- ③ 花の大きさは、すべての品種で、加温温度10℃、15℃による差はありません(表)。

### 図、写真、具体的データなど

表 加温温度における切花品質の違い

品種	加温温度	切花長 (cm)	花径 (mm)	茎径 (mm)	80% 採花日 (月/日)
ボブ チェリッシュ	10℃	72.6	ns	ns	*
	15℃	74.7			
ボブ スイートピンク	10℃	78.5	ns	ns	ns
	15℃	78.0			
シャギー ローズ	10℃	87.6	*	ns	*
	15℃	91.9			

注1) 電照は75W白熱球を使い、9/9~11/16の期間、毎日22時から翌日4時まで6時間の照射とした。

注2) 加温は10℃、15℃ともに10/24から開始した。

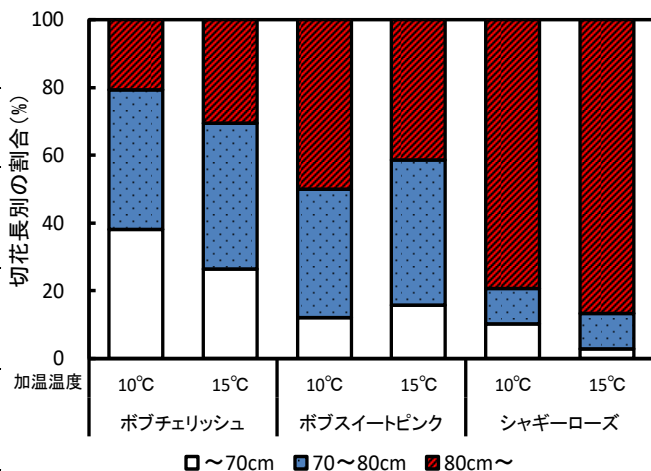


図 加温温度の違いによる切花長

注) 3品種とも定植は9/9とした。

<お問い合わせ先> 滋賀県農業技術振興センター

花・果樹研究部 花き係 電話 : 077-558-0221 E-MAIL : gc58@pref.shiga.lg.jp

<詳細な技術情報>

農業技術振興センターホームページ <https://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/shiryuu/seika/331437.html>



# 早春期のチャ冬芽の耐凍温度を迅速に把握

## 温度履歴を利用したチャ冬芽耐凍温度の推定法

オススメする方

普及指導員、JA営農指導員、茶生産農家

### 成果の内容・特徴

- ① 温度履歴を使った推定モデルで、早春期におけるチャ冬芽の耐凍温度が推定でき、専用のEXCELシートを用いることで、従来法(電解質漏出測定法)より迅速な推定が可能です(図1)。
- ② 様々な気象条件の年や現地集団茶園においても、実用レベルで推定できます(図2)。

### 図、写真、具体的データなど

耐凍温度=0.00013×Tm2+0.04960×Tm-7.50237  
 Tm(温度履歴)=Σ{(日平均気温-下限温度)×忘却関数  
 +(日平均気温-上限温度)}

※ 日平均気温<下限温度、上限温度<日平均気温の場合のみ積算  
 下限温度=3.5℃、上限温度=14.0℃ 積算日数23日  
 忘却関数: k/(log(t-n+1))c+k (低温部分のみを重み付け)  
 k = 18.7, c = 3.4 t=積算日数、n=積算開始日からの経過日数

日付	日平均気温	基準温度 3.5℃	基準温度 14.0℃	温度履歴	チャ冬芽 耐凍温度
3月8日	2.31	-1.19	0.00	-15.5	-6.63
3月9日	3.32	-0.18	0.00	-12.3	-6.19
3月10日	4.27	0.00	0.00	-11.1	-6.01
3月11日	4.33	0.00	0.00	-8.6	-5.63
3月12日	5.12	0.00	0.00	-7.3	-5.43
3月13日	7.49	0.00	0.00	-7.3	-5.42
3月14日	6.17	0.00	0.00	-7.2	-5.41
3月15日	3.49	-0.01	0.00	-7.2	-5.41
3月16日	4.92	0.00	0.00	-6.5	-5.29
3月17日	4.31	0.00	0.00	-6.5	-5.29
3月18日	5.31	0.00	0.00	-4.6	-4.97
3月19日	6.56	0.00	0.00	-4.5	-4.96
3月20日	9.10	0.00	0.00	-4.5	-4.96
3月21日	7.21	0.00	0.00	-3.3	-4.75
3月22日	6.41	0.00	0.00	-2.5	-4.61
3月23日	6.46	0.00	0.00	-2.5	-4.61
3月24日		-3.50	0.00	-2.4	-4.59
3月25日		-3.50	0.00	-1.3	-4.49
3月26日				-4.8	
3月27日				-15.2	-6.59
3月28日				-10.2	-5.02

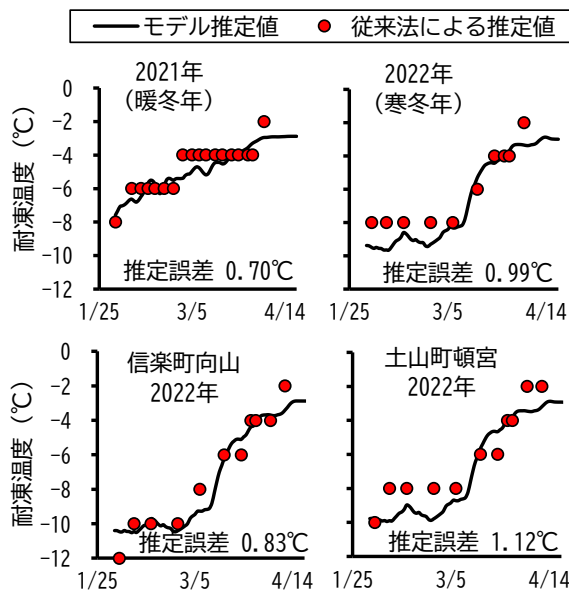


図2 年次と地域を異にした推定モデルの精度  
 注)現地茶園の推定はメッシュ気温を用いた。  
 推定誤差はRMSE(二乗平均平方根誤差)。

図1 チャ冬芽耐凍温度の推定モデルと専用シート

<お問い合わせ先> 滋賀県農業技術振興センター

茶業指導所 電話:0748-62-0276 E-MAIL:gc60@pref.shiga.lg.jp

<詳細な技術情報>

農業技術振興センターホームページ <https://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/shiryuu/seika/331437.html>



# センサーでチャの炭疽病を発生予察！

## 葉濡れセンサーを利用したチャ炭疽病感染好適日の推定とその防除方法

オススメする方

茶生産農家

### 成果の内容・特徴

- ① 葉濡れセンサーを用いるとチャの葉面湿潤時間が推測できます(写真)。
- ② 炭疽病の感染好適日は、「葉面湿潤時間16時間以上かつ葉面湿潤状態の気温が22℃以上」の日です(図、表)。
- ③ 感染好適日から7日後までに治療剤を散布すると、高い防除効果が得られます。

### 図、写真、具体的データなど



写真 葉濡れセンサー

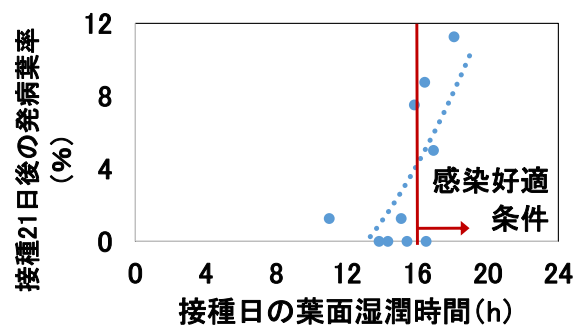


図 葉面湿潤時間が炭疽病の感染に及ぼす影響

表 気温が炭疽病の感染に及ぼす影響

気温 (℃)	発病葉率(%)		
	接種17日後	接種21日後	接種30日後
16	0.0	0.0	0.0
19	0.0	0.0	0.0
22	0.0	5.0	12.5
25	0.0	0.0	12.5

注) 炭疽病菌接種後、葉面湿潤状態を18時間維持した。

<お問い合わせ先> 滋賀県農業技術振興センター

茶業指導所 電話:0748-62-0276 E-MAIL:gc60@pref.shiga.lg.jp

<詳細な技術情報>

農業技術振興センターホームページ <https://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/shiryuu/seika/331437.html>

# 茶園における土壌中無機態窒素量の推定

## 土壌センサーによるEC値からの土壌中無機態窒素量の推定法

施策への活用 競争力強化

### 成果の内容・特徴

- ① 茶園に設置した**土壌センサー**の測定値（EC、体積含水率）から**土壌中無機態窒素量**を推定する技術を開発しました。
- ② 土壌センサーの**埋設位置**は、施肥後の反応が良く、ほ場管理作業に影響の少ない、**雨落ち部深さ10cm**が適当です（図1）。
- ③ センサー値からRhoadesモデルにより土壌溶液のECを推定し、さらに各種関係式から無機態窒素量を推定できます（図2）。

### 図、写真、具体的データなど

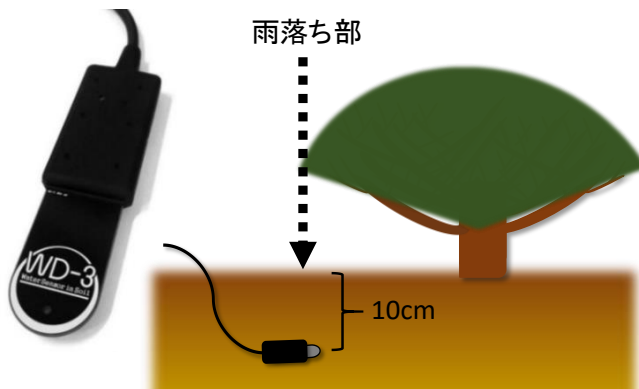


図1 使用した土壌センサー(左)  
および設置位置(右)

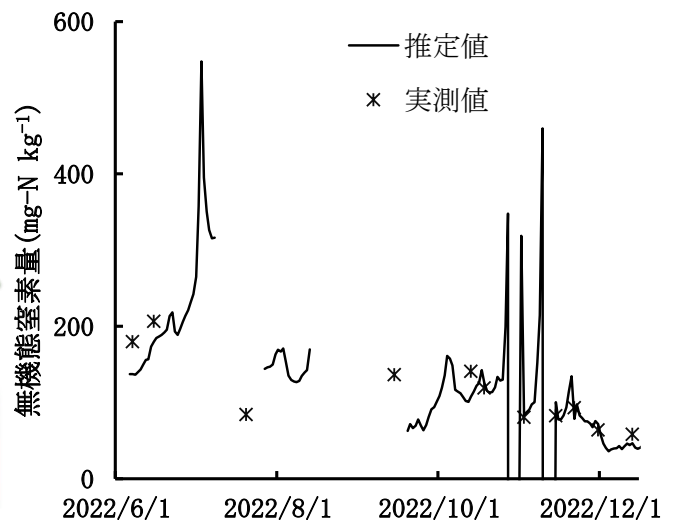


図2 無機態窒素量の推定値  
および実測値

<お問い合わせ先> 滋賀県農業技術振興センター

茶業指導所 電話:0748-62-0276 E-MAIL:gc60@pref.shiga.lg.jp

<詳細な技術情報>

農業技術振興センターホームページ <https://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/shiryou/seika/331437.html>

# 「ふうしゅん」を用いた有機栽培茶生産体系

## 有機栽培適性品種「ふうしゅん」を用いた有機栽培茶生産体系

オススメする方 有機栽培茶生産農家

### 成果の内容・特徴

- ① 有機栽培適性品種の「ふうしゅん」に、有機JAS認証栽培で使用可能な資材と一番茶後せん枝を組み合わせた**有機JAS防除**、旨味の強い茶の生産に有効な**春肥重点施肥**、葉色向上のための**水酸化マグネシウム施用**を組み合わせます(表1、図、写真)。
- ② 一・二・秋番茶は**慣行栽培と同等**の収量・品質が得られます(表2)。

### 図、写真、具体的データなど

表1 有機施肥体系(春肥重点施肥+水酸化マグネシウム)

肥料	施肥時期および施肥量(kg/10a)						年間計(kg/10a)
	2月下	3月上	3月下	4月上	8月下	9月中	
菜種油粕	400		300		150	150	1000
草木カリ					40		40
水マグ		20					20
	N-P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> -K <sub>2</sub> O 計 53-20-22						



写真 有機栽培適性品種「ふうしゅん」

表2 有機栽培茶生産体系が収量に及ぼす影響

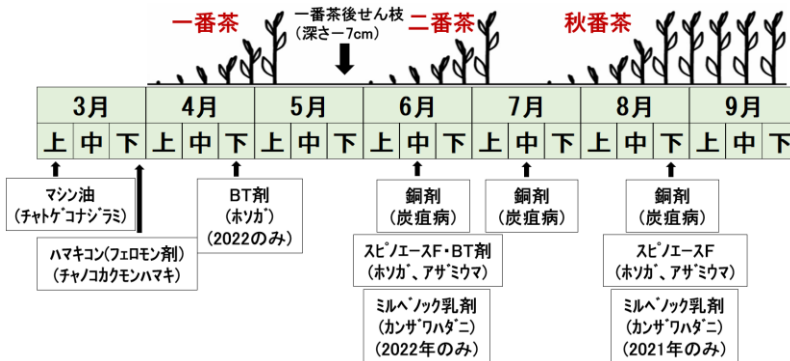
茶期	試験区	摘芽重(g/m <sup>2</sup> )			
		ふうしゅん		やぶきた	
		2021年	2022年	2021年	2022年
一番茶	有機栽培区	847	798	932	594
	慣行栽培区	850	845	856	629
	t検定	ns	ns	ns	ns
二番茶	有機栽培区	682	810	339	268
	慣行栽培区	853	647	491	354
	t検定	ns	ns	ns	ns
秋番茶	有機栽培区	2521	3157	1227	878
	慣行栽培区	3166	2809	1398	1185
	t検定	ns	ns	ns	*

注1) 各収量構成要素は20cm×20cmの枠組み調査(6か所×1反復)。

注2) \*はt検定においてそれぞれ5%水準で有意差があることを示し、nsは5%水準で有意差がないことを示す。

注3) 出開き度は逆正弦変換した値をt検定。

図 有機防除体系(有機JAS防除)



<お問い合わせ先> 滋賀県農業技術振興センター

茶業指導所 電話:0748-62-0276 E-MAIL:gc60@pref.shiga.lg.jp

<詳細な技術情報>

農業技術振興センターホームページ <https://www.pref.shiga.lg.jp/nougincenter/shiryou/seika/331437.html>



## かぶせ茶栽培に適した新品種「かなえまる」

長期被覆により摘採適期の拡大が図れるチャ品種「かなえまる」

オススメする方

茶生産農家、改植予定農家

## 成果の内容・特徴

- ①「かなえまる」は多収で芽揃いが良く、滋賀県での摘採期は「やぶきた」並の中生の新品種です。
- ②長期被覆した一番茶生葉収量は、「やぶきた」よりも多く、その後の二番茶・秋番茶も「やぶきた」より多収です。また、荒茶品質は、「やぶきた」より総じて優れますが、21日以上被覆では外観が低下します(表、図1)。
- ③一番茶に18~20日間被覆することで、品質を維持しつつ摘採適期を3~6日間遅らせることができます(図2)。

## 図、写真、具体的データなど

表 一番茶を長期被覆した「かなえまる」の製茶品質

品種名	被覆期間	外観		内質			合計
		形状	色沢	香気	水色	滋味	
かなえまる	15日	8.5	7.8	7.0	8.0	8.0	39.3
	18日	7.0	8.0	7.5	8.3	8.8	39.5
	21日	5.5	6.8	7.3	8.3	8.8	36.5
	露地	7.8	6.3	5.5	7.3	7.8	34.5
やぶきた	15日	8.0	7.0	8.5	7.5	7.3	38.3
	18日	6.8	7.3	8.3	7.8	6.8	36.8
	21日	6.0	6.8	6.8	8.0	7.5	35.0
	露地	6.5	5.0	6.8	6.3	5.8	30.3

1) 各項目10点満点 標準審査法(かぶせ茶)

2) 2021年、2022年平均値

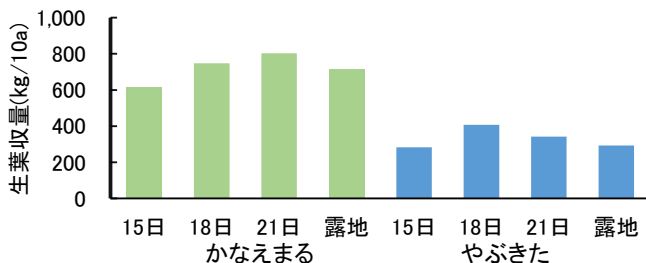
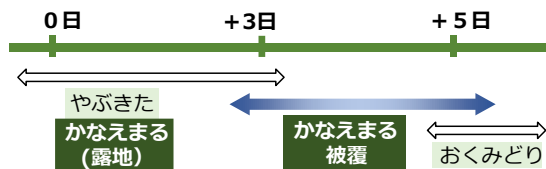
図1 一番茶を長期被覆した「かなえまる」の生葉収量  
1) 2021年、2022年平均値

図2 18~20日間被覆した「かなえまる」の摘採期

&lt;お問い合わせ先&gt; 滋賀県農業技術振興センター

茶業指導所 電話:0748-62-0276 E-MAIL:gc60@pref.shiga.lg.jp

&lt;詳細な技術情報&gt;

農業技術振興センターホームページ <https://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/shiryoku/seika/331437.html>Mother  
Lake

滋賀県



# プラスチックを利用しない緩効性肥料による 水稲栽培

水稲の環境こだわり栽培に対応したプラスチックを利用しない緩効性肥料の施用効果

施策への活用

環境保全・リスク対応

成果の内容・特徴

- ① **環境こだわり栽培**に対応した水稲「コシヒカリ」の全量基肥栽培において、プラスチックを利用しない**ウレアホルム**を含む緩効性肥料の施用効果を評価しました。
- ② プラスチックを利用しない肥料を施用した場合の収量、品質（整粒歩合、玄米タンパク質含有率）は、通常のプラスチックで被覆した肥料と**同程度**を示します（図）。

図、写真、具体的データなど

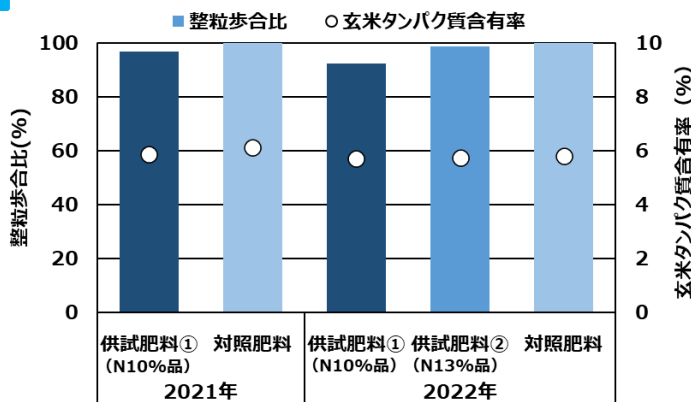
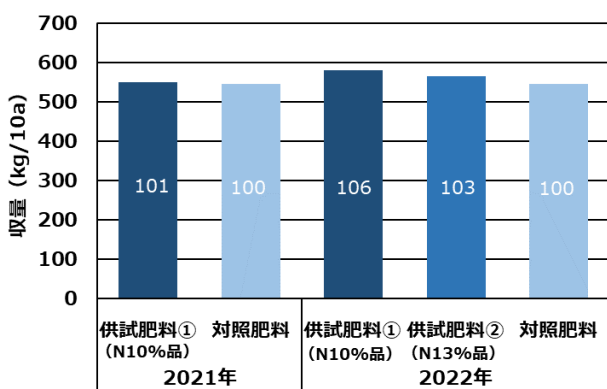


図 収量および品質

注1) 供試肥料①: 窒素10%のプラスチックレス肥料、供試肥料②: 窒素13%のプラスチックレス肥料、対照肥料: プラスチック被覆肥料を含む緩効性肥料。プラスチックレス肥料は、ウレアホルムと堆肥を含む有機質肥料を混合した肥料。

注2) 整粒歩合は、玄米の外観品質の良し悪しを示す指標。整粒歩合は対照を100とした比。

注3) 玄米タンパク質含有率は米の食味の指標。

<お問い合わせ先> 滋賀県農業技術振興センター

環境研究部 環境保全係 電話0748-46-2500 E-MAIL gc57400@pref.shiga.lg.jp

<詳細な技術情報>

農業技術振興センターホームページ <https://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/shiryou/seika/331437.html>



# 浅水代かきで被膜殻の浮遊を抑制

浅水代かきによるプラスチック被覆肥料由来の被膜殻の浮遊抑制

おすすめする方

水稻栽培農家、普及指導員

成果の内容・特徴

- ① 水稻栽培期間において、**プラスチック被覆肥料**由来の**被膜殻**が水面に最も多く浮遊する時期は**代かき後**です(図1)。
- ② 被覆殻のほ場外への流出抑制のための技術として、代かき時に**浅水代かき**を実施することにより被膜殻の水面への浮遊を抑制することができます(図2)。

## 図、写真、具体的データなど

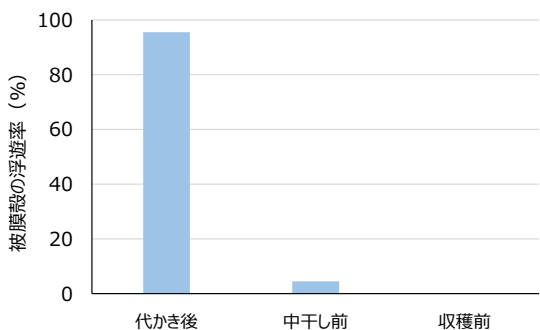


図1. 水稻栽培期間における被膜殻の時期別水面浮遊量

注1) 土面が完全に見えない水量で代かき(慣行代かき)を1回実施した時の調査結果である。  
注2) 過去の施用履歴が異なる3試験区で調査を行った。

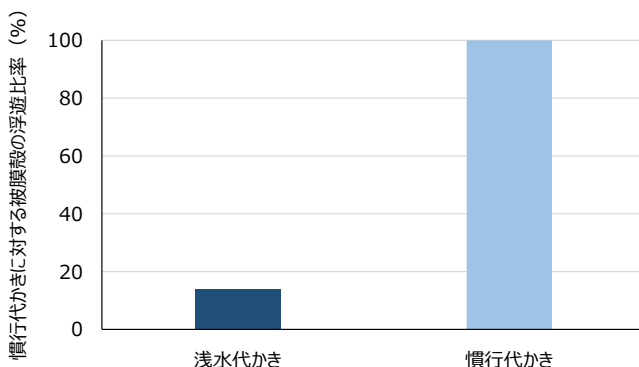


図2. 被膜殻の浮遊抑制効果

注1) 浅水代かきは、土面が7割から8割見える程度の水量で1回行った。慣行代かきは、土面が完全に見えない水量で1回行った。  
注2) 過去の施用履歴が異なる3試験区で調査を行った。  
注3) 代かき後の浮遊量を調査した。

<お問い合わせ先> 滋賀県農業技術振興センター

環境研究部 環境保全係 電話0748-46-2500 E-MAIL gc57400@pref.shiga.lg.jp

<詳細な技術情報>

農業技術振興センターホームページ <https://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/shiryoku/seika/331437.html>



滋賀県農業技術振興センター  
令和4年度主要試験研究成果 PR版